

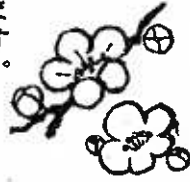
ひろば大代

NO.223

大代公民館

市原仁郎氏 市議三選

おめでとうございます。



今回、かってない敷しい市会議員選挙の展開の中で、見事、市原氏が当選されましたことは、この上ない大代町の喜びです。

これまでの二期間、市のため、町のため献身的な働きをされ、大きな業績を残されましたことは、皆様ご存知の通りです。

市原氏は、私達市民・町民の代弁者です。更に明るい町づくりを推進するために、私達の発展的、建設的意見を吸い上げて、市政に反映して頂けるものと思います。

私達も、過疎の町と尻込みをしないで、心をひとつにし胸を張って共々頑張ろうではありませんか。

元旦

大田市 原田萬里



電話のベルで目覚めると午前二時半である。

「もう仲間は全員集合しています。」と電話の向こうから声が伝わって来た。午前三時出発の約束をしていたのである。大江高山の山頂からのご来光を拝むことになっているのであった。

大晦日に準備をしておいた荷物を背負い、大急ぎで仲間の待つ集合場所に走り午前三時きっかりに仲間五人と出発した。雲と暗闇の漆黒の中を車は走る。

大森隧道付近の気温が三度を示している。このぶんだと頂上は零度ではないかと想像をしながら、雲の切れ目から見える星に一縷の望みをかけて進む。午前三時半飯谷側の駐車場に到着。

各自がヘッドランプを装着してお互いを照らしながら身支度をして四時前に登頂を開始した。

若者の足は速い。古希を迎えた私はその速さにはついてゆけない。自分のペースを守りながら最後尾を行く。登山道もやがて急坂となり汗が滲んでくる。

背負っている荷物の重みがいやおうなしに肩にかかってくる。年末の雨で足元が危うい。

中間点の休憩所で荷物を下ろして小休止、祖式や大代の家々の明かりが幻想的にみえる。雲が厚く星は東の空に一つ見えるだけ。

再び重い荷物を背負って出発。胸突八丁の坂道は杖などは役に立たず四つん這いで登るしかない。目の前しか照らさないヘッドランプでは時として道を見失うこともある。

稜線を吹き抜ける風は冷たく、登山道は乾き落ち葉がガサガサと音を立てる。

五時半ようやくやく頂上に到達する。足もとの草群がキラキラと小さな光を発する。冷やされた空気中の水蒸気が結晶する寸前なのであろう。

日御碕灯台の光が点滅する。静間漁港の明かりが眩しい。南東はるかに琴

引スキ―場の照明が、南西には旭テングストーンの電照灯が輝く。真っ暗い下界には星屑のように電灯の光が浮き立つ。

熱いコーヒーで冷えた体を暖め、二重のおせち料理と、お屠蘇で互いに新年を祝福する。夜が明けるまでのしばらくの時間五つのヘッドライトに照らされながら山頂の正月パーティが繰り広げられる。

いつの間にか黒いベールが薄れ中国山地の山並みが見えてくる。カメラを据えつけ日の出を待つ。

雲は厚いが山脈の稜線が茜色に染まってきた。ご来光が仰がれることを期待したが残念ながらそれらしき光景を見るに留まった。

下山は飯谷側を敬遠して山田側とすることになり、急遽仲間の一人が携帯電話で知人に救援を依頼して山田側の駐車場まできてもらうことにした。山田から飯谷の山辺神社まで運転手を運んでもらい、車を山田側に移動して仲間を乗せ帰途についた。

さすがの若者も疲労が出て運転手だけを残して心地好い眠りに入った。

講演会を終えて

大代小PTA会長 高村節雄



二月一日 第三十三回幼小PTA公民館合同講演会が例年の場所を変えて昨年完成した大代小学校多目的スペースにおいて行われました。

講師には、池田診療所所長の長坂行博先生をお迎えし、「健康な二十一世紀を迎えるために」と題して、講演して頂きました。

その中で、最近の子供たちは安らく居場所がなく、荒れた子供や沈む子供や病める子供が非常に多く社会問題になっている状況を聞くと、我が家での生活を再チェックする必要があると感じました。

また、残してやりたいものは、ときめきの知的体験と聞き共感しました。興味を沸かせる事は、印象教育にもなり、学習への意欲が向上すると思いま

す。次に感性と言う事ですが、数多くの経験や体験を生かし、価値観を養い豊かな人間性を築いてもらいたいと思うところですが、

最後に思った事は、食品には体に悪い添加物がまだ沢山使用されていることです。発癌性物質や遺伝子の奇形による障害児等が増えているのも事実です。安全な食品をバランス良く食べて健康な二十一世紀を迎えられたいと思っています。

果敢に現実と対峙しよう

関西高山会事務局長 中本 弘

先日S新聞に「年飾への逃避」という記事が掲載されていた。その記事を興味深く読んだのでその紹介と自分の考えを述べたい。

「もう年だから」を口実に日常の煩わしさから逃げていないだろうか、こうした逃避は、老化の兆候である。

逃避とは欲望や願望が叶えられないとき、それを放棄したり自分にとって都合の悪い現実から逃げ出そうとした

りすることである。逃避には次のタイプがある。

「逃避」は、失敗しそうな仕事をしなくてはならない時、難しい交渉をしなくてはならない時、「もう年なので難しいことはよくわからないから」、「最近体の調子が悪いから」とか「友だちの病気見舞いに行かなければならないので」等と言ってかわりになることを避けることである。

次に「空想への逃避」とは何十年も前の楽しかった思い出にひたったり、自分勝手な夢を描いたりして現実の年齢から目をそむける。

最後に「現実への逃避」とは今やらなくてはいけないことを後まわしにして、趣味や娯楽に熱中して不安をごまかそうとする。

その結果年齢を忘れようとする。老いを自己防衛の手段に使わないで果敢に現実と対峙しようという記事であった。私の所感として次の三点を心に決めたい。

先ず「もう年だから」と口に出るようになったら老化の兆しである。そのことを禁句としていく。

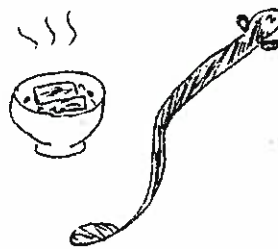
次に、はつらつと明るく目標にむけてチャレンジする。その結果目標達成時のさわやかな成功を持ちたい。

最後に信念、哲学を持つ。例えば私の場合には謙虚と愚直を哲学としている。尚アメリカの詩人、サムエルウルマンの「青春」という題は「青春とは年齢を言うのではなく心の様相だ」とのすばらしい言葉で始まる。

高齢化と過疎の町、わが古里で一生懸命に斗っておられる皆様の、心の歯止めになればと書きしるしたものである。

「旬を求めて」

関西高山会会長 田辺正義
料理研究家



其の十二「どんぶりものがたり」

「うな井の誕生」

そのうな井がデビューしたのは江戸後期、文化年間の頃というから一八〇四年以降のことである。江戸の堺町に大久保今助という芝居の金主がいた。今助はうなぎが大の好物で、小屋へ来るといつも近くのうなぎ屋からかば焼きとご飯を運ばせていた。

当にかば焼きは温めたヌカで保温していた。ところがせっかくのうなぎも今助のところへ届く頃にはどうしても冷めてしまう。今助はそれが残念でならない。なんとか温かいまま食べる方法はないものだろうか。

そこで考えついたのが炊きたてのご飯の間に焼きたてのかば焼きを挟むというアイデアである。これならうなぎが冷める心配もないし、ご飯と一緒に食べられる……。そこでさっそく試したところ、ご飯はほどよく蒸され、タレと馴染んでまことに美味。

うなぎ屋はさっそく大どんぶりのご飯にかば焼きをのせて天保銭一枚で売り出したところ、これが大当りして江戸中の評判を呼び、「元祖鰻めし」の看板を掲げた、これがうな井の誕生記なのである。天保七年（一八三六）の

ことという。

さてそのうなぎ屋とは芝居小屋に近い葺屋町の大野屋のことである。

ところが堺町に芝居があった時期と文化年間とは年代にずれがある。しかし話というのはそういうものである。ちなみに井に割り箸という店屋物スタイルが確立したのはこのうなぎ井からである。

※金主||資金を出すひと

||俳句||

あすなる句会



大田市 原田萬里

長生きを誓って五年の日記買ふ

山頂に友と立ちたり初日の出

下谷 尾崎三枝子

白寿への歩み健やか今朝の春

落ちて尚紅あざやかに寒梅

下市 渡 あやこ

鮮やかに色を回してあばれ独楽

小太りと言はれし指の手套脱ぐ

椿 横手いちえ

少年のみくじ大吉初詣
近道をとればひそと冬椿

八反田 森 信子

寒椿籠に一輪旅の宿

手袋の手に喰ひ込みし犬の紐

椿 花田時子

指先の無き手袋をぬだられし

車停め道問ふ人の思白し

下市 今田文子

回覧板水仙の蕾に迎へられ

古き樹に蕾の多き寒椿

上市 笹田サチエ

大粒の霞踊るや傘の上

ほころびて香氣放ちぬ水仙花

椿 柿丸寿枝

光合ふ阿吽の獅子や初御空

寅年の孫が読み手の歌留多取り



*** 二月の行事予定 ***

◆ 1日(日) 幼小公合同講演会

◆ 3日(火) 編纂委員会

◆ 9日(月) あすなる句会

◆ 12日(木) 「市長と語る会」

午後2時〜4時公民館にて
皆さんお出かけください。

◆ 15日(日) 町民卓球大会

午前8時半〜旧中学校屋体

◆ 15日(日) 福祉弁当

◆ 22日(日) 連合自治会

◆ 22日(日) 農業機械作業安全講習会

午後1時半〜山田集会所で
草刈り機・乗用農業機械他

◆ 26日(木) 農林課転作会議

三月初旬行事予定

◆ 1日(日) 婦人会総会 午前9時〜

「福祉の講演会」講師 松村 満氏

午前11時〜12時まで公民館にて

◆ 3日(火) 出張確定申告相談

公民館で午前9時〜午前12時迄